

表1 市内小学校児童数の推移と見込み

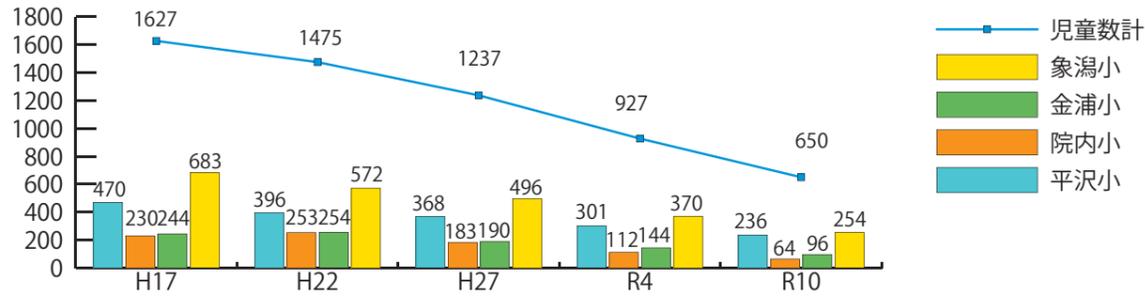
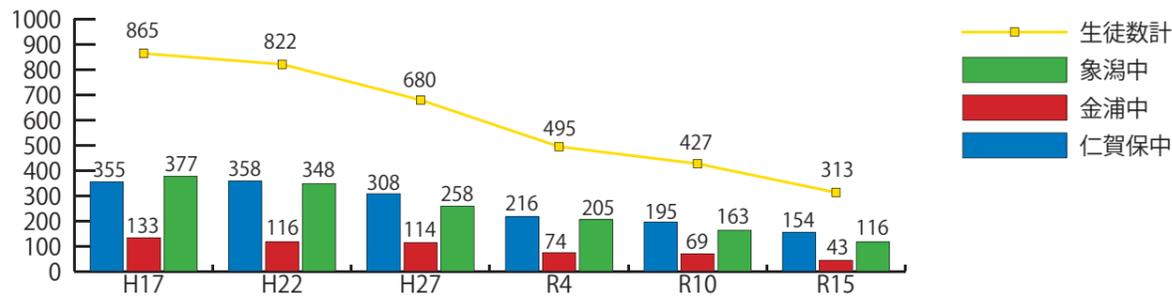


表2 市内中学校生徒数の推移と見込み



にかほ市の 学校環境適正化に向けて

- 1 適正化の実施にあたっては、よりよい教育環境を子どもたちに提供することを最優先とし長期的な見通しをもって行うべきであること。
- 2 適正化計画の策定にあたっては、小学校と中学校を一体的にとらえ、本市の児童生徒の状況および通学距離などの児童生徒の負担、地域の状況などさまざまな観点から検討すること。
- 3 適正化計画は保護者や地域の理解を得られるよう丁寧に説明して進めること。
- 4 小学校では1学年2学級以上を目標とし、学級活動やグループ活動が効果的に行うことができる規模を確保

うためには、一定規模の集団が確保され、経験年数、専門性、男女比等についてバランスの取れた教職員が配置されていることが望ましく、そのためには一定の学校規模を確保することが重要になります。

また、小中学校は各地域のコミュニティの核としての性格を有することが多く、防災、保育、地域の交流の場などさまざまな機能を併せ持つことを考慮する必要があります。

―適正化検討委員会からの提言―

令和4年10月、学校環境適正化検討委員会を設置し、今後の市内小中学校のあり方を検討してきました。委員会の提言内容は次のとおりです。

- 1 **学校環境適正化のこれから**
本市の子どもたちが社会環境の変化から生じる課題を克服し、新しい時代をより良い社会・豊かな人生の創り手としてたくましく生き抜いてくれることを願っています。そのために必要な資質・能力を身につけることができるように、学校の規模や配置などを考え、持続可能な教育環境と教育の仕組みを構築する取組みを進める必要があります。こうしたことから市教育委員会では、提言をもとに学校の環境適正化を進めるため、にかほ市学校環境適正化基本計画を策定していきます。
- 2 **問合先**
教育総務課 ☎38・2259
学校教育課 ☎38・2266
- 3 **適正規模・配置の基本的な考え方**
義務教育は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としています。このため、単に教科等の知識や技能を習得させるだけでなく、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合うことを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身につけさせることが重要となります。このような教育を十分に行
- 4 **市立小中学校の实情**
にかほ市には4校の小学校と3校の中学校があり、約900人の小学生と約500人の中学生が在籍し、各小中学校に通学しています。
左ページ表1・2は市内の児童数と生徒数を表していて、令和4年度と平成17年度を比較すると、小学校では700人、中学校では370人がそれぞれ減少しています。
子どもの数が減ると、学級数の減少や規模の縮小につながり学校自体が小規模化し、集団活動や学校行事に影響が生じます。スポ少や部活動の運営も難しくなり、既に廃部や複数校での合同運営となっている学校もあります。さらに人数の減少が進むと、複式の学級編成（2つ以上の学年を1つにした学級編成）になることも想定されます。このように、子どもの数の減少は学校運営や教育活動に影響を与えます。
- 5 **中学校では、1学年3学級以上を**
目指し、すべての教科において専門教科の免許を有する教員が確保できる体制を整えるよう努めること。
- 6 **複式学級は、学習活動が制限される**
多様な学習活動が難しいことや教員の負担が大きくなることから、可能な限り編成しないよう努めること。
- 7 **学校は地域コミュニティの中核で**
あることから、学校の統廃合を行う場合は、地域とのつながりの維持などの配慮に努めること。
- 8 **統廃合にあたっては、各学校の持**
っている風土や文化、特色ある教育活動について統合後の教育活動の中で継続されるよう配慮すること。